

ぬま健司の大綱質疑と田辺市長の第1答弁（2月27に）

第19号議案 令和5年度古賀市一般会計補正予算（第8号）

今回の補正予算は2億6,530万4千円の追加となっている。市長は2月21日の本会議で提案理由の説明を口頭で行った。主な補正を2点に絞って説明されたが補正予算全体の必要性や特徴の説明は不十分だった。そこで以下の点について市長の見解を求める。

ぬま健司の質疑	田辺市長の第1答弁
①議会に提出する補正予算を審議・決定したのはいつ、どの会議か。21日の口頭説明の口述書はいつ作成し確認したか。	1月22日の三役査定において審議し、決定。市長口述書は、当日までに作成。
②「第19号議案 令和5年度古賀市一般会計補正予算（第8号）の概要」（A4、1枚）の内容を見直し、今回口頭で述べた内容を記載した方がわかりやすくなると思うがいかがか。	記者発表の際に説明する資料とほぼ同内容のものを議員の皆様にも参考資料としてお渡ししている。今後もわかりやすい資料の作成に努めていく。
③今回の補正予算の大きな特徴並びに主な内容は何か。	国の補正により補助金を得て令和6年度に繰り越して実施することとなった事業に伴うものや、現行予算から見込みの増減に対応する事業や完了した事業の額確定に伴うもの。
④財政調整基金繰入金が6億7,911万円の減額となっている。その理由並びに年度末における同基金の残高見通しはいくらか。古賀市の財政状況をどう評価できるか。	歳入歳出のバランス調整に伴うもので、年度末現在高は約32億6200万円を見込んでいる。財政状況は、今後も扶助費や投資的経費の伸びが見込まれ、「厳しくなりつつある」との認識は変わっていないし、「大きな事業に着手する余力がある」という認識も変わっていないので、適切な予算執行に努めていく。
⑤歳入で新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が1億5,353万1千円、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が5,460万9千円計上されている。財政調整基金繰入で立て替えていたお金が清算されたと考えて良いか。この財源の活用を予定していた事業の執行率が低かった分はどう反映するのか。	財政調整基金については、歳入歳出予算に様々変更が生じた際に、全体のバランス調整のために活用。今回ご指摘の交付金の計上分も含めて、財政調整基金でバランス調整しているもの。活用を予定していた事業の執行率に関係なく、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金は、全額活用する予定。
⑥電気料金高騰対策自治会支援金が2,282万9千円の減額補正、電気・ガス料金高騰対策事業者支援金が3,000万円の減額補正となっており、その理由は申請者の見込み減とのことだった。活用を見込んでいた交付金はどうなるのか。その結果をどう総括しているか。	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金は、全額活用する予定。必要な自治会及び事業者の支援に対応できたものと考えている。
⑦宮地岳線跡地道路改良工事と小野小トイレ改修工事あわせて1億7,532万5千円の増額補正をしたうえで次年度に繰越そうとしている。本来は次年度当初予算に計上するものをこうした措置をする理由はなにか。財政運営や事業実施への影響はどうか。	令和6年度事業として当初予算計上を予定していたが、昨年末の国の補正により予算確保される見込みが立ったことから、急遽事業を前倒しして実施することとしたが、必要な事業期間が確保できず、年度内の完了が見込めないため。予定していた事業であることから、財政運営や事業実施への大きな影響はないものと考えている。